

○今月の病害虫発生状況○

- ・ **うどんこ病** の発生はやや少ない状況です。
- ・ **ハダニ類** の発生は平年並です。
- ・ **アザミウマ類** の発生は少ない状況です。

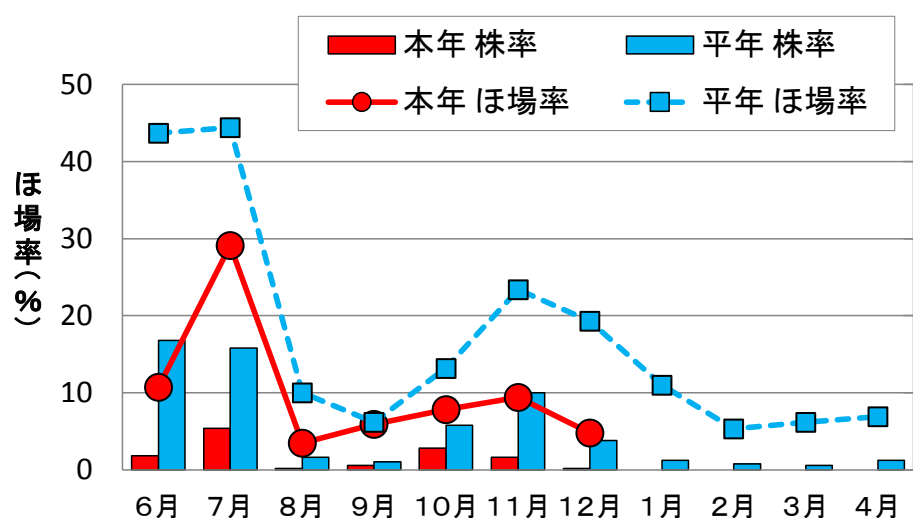


図1 うどんこ病発生ほ場率・株率

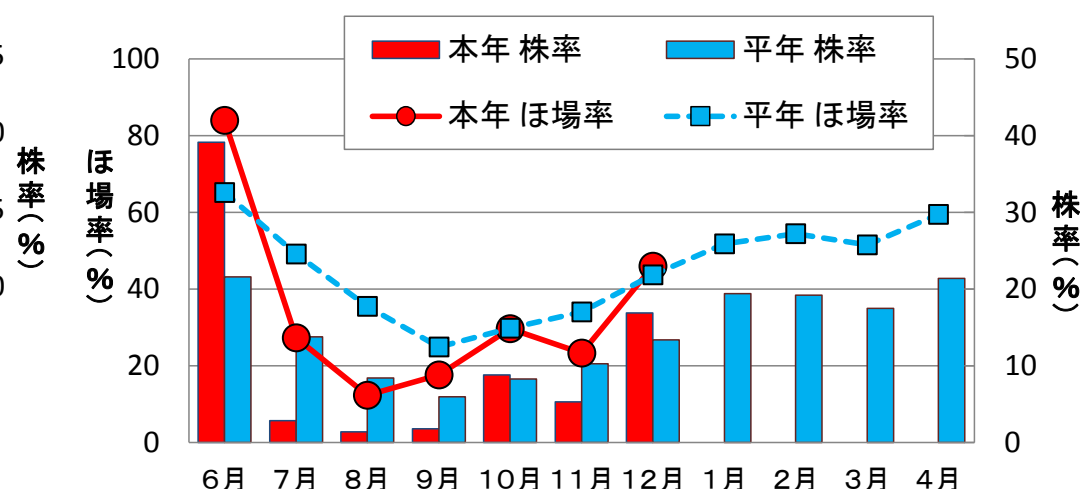


図2 ハダニ類発生ほ場率・株率

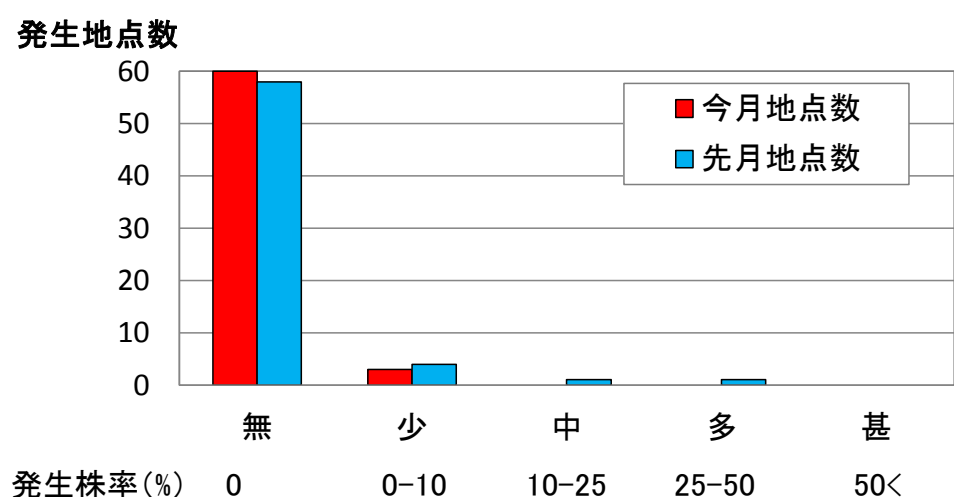


図3 うどんこ病発生程度別の地点数

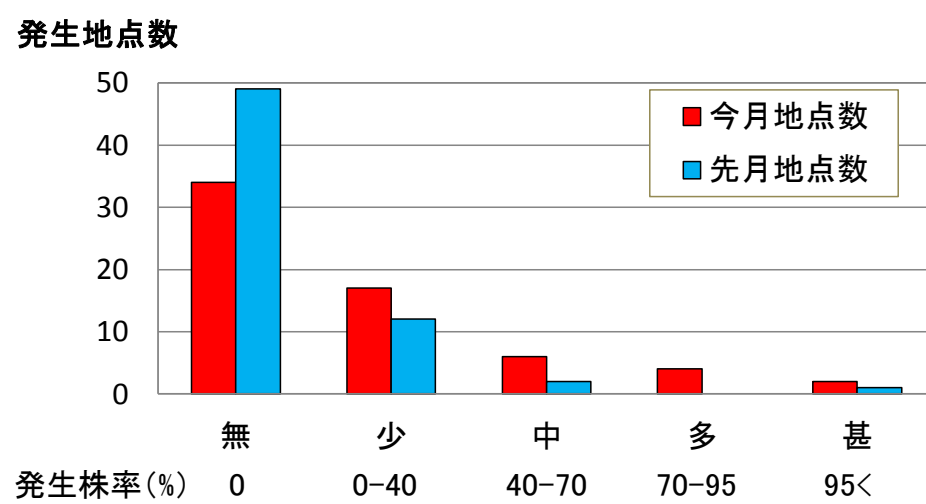


図4 ハダニ類発生程度別の地点数

○今月の技術情報（技術指導班）○（12月）

・平成30年産のいちごの生育は、定植後、根量の少ない状況で経過してきましたが、徐々に回復してきました。しかし、10月中下旬の低温、日照不足、また、その後も気温の低い傾向で推移しているため、「とちおとめ」、「スカイベリー」ともに平年と比較すると1週間程度の遅れが見られます。

・病害では、炭疽病、萎黄病、うどんこ病、害虫は、ハダニ類、アブラムシ類、コナジラミ類の発生が見られ、ほ場によっては、アザミウマ類の発生も散見されます。

・ハダニ類やアザミウマ類に対する天敵の導入は年々増加傾向にあります。しかし、その効果は放飼時期やほ場環境により差が見られます。天敵を導入しているからと過信するのではなく、害虫の発生が多く見られる場合には、天敵への農薬の影響日数を考慮しながら速やかに防除しましょう。

・1か月予報では、気温は低く、降水量は平年並～少ないと発表されています。ハウスの密閉時間が長くなるとハウス内の湿度が高くなり、灰色かび病や菌核病の発生も懸念されますので、適切な温湿度管理を行いましょう。



写真1 果実の灰色かび病



写真2 ナミハダニ